

釧路南ロータリークラブ会報

第12回 例会報告 2021.10.22 通算1862回

・点 鐘 亀井会長

・ロータリーソング

「それでこそロータリー」



ソングリーダー 佐藤 真之介会員

・会長挨拶



去る10/16(土)に澤山幹事と共に釧路北 RAC の創立50周年記念式典に出席してまいりました。

第一部は足立パストガバナーによる基調講演、第二部は「これからのローターアクトクラブについて」

と題したパネルディスカッションはオンライン併用のハイブリッド開催でした。

次年度2022年7月よりRACでも補助金事業を行えるようになることもあり、会員減少に悩む中でも今後の活動について熱い意見が取り交わされていました。先ほど11時より国際交流センターにて釧路新聞社創刊75周年記念式典が開催され、昭和21年の創刊から郷土紙として長く親しまれている釧路新聞の歴史や取材に始まり多くのスタッフが連携し私たちの手元に配達される紹介動画が上映されました。現在は2市10町1村へ配布されているとのことで、地域の情報源として私も会社で購読しております。また、ご来賓挨拶の中には改めて考えさせられる内容が盛沢山で、本日は大変貴重な機会をいただきました。

・幹事報告



* ロータリー米山スリランカ学友会・初代会長追悼式のご案内が届いております。

* 10月16日の釧路北ローターアクトクラブ50周年記念式典の資料があります。回覧にてご覧ください。

・本日のプログラム

「米山奨学会月間に因んで」

担当 ロータリー財団・米山委員会

◆福井克美委員長



1952年、日本で最初のロータリークラブの創立に貢献した実業家米山梅吉氏の功績を記念して米山奨学会を発足しました。この事業は日本の全クラブの協同事業に発展し、1967年、文部省の許可を得て、財団法人ロータリー米山記念奨学会となりました。米山梅吉氏は、幼少にして父と死別し、母の手一つで育てられました。16歳の時、静岡県長泉町から上京して、働きながら勉学に励み、20歳で米国へ渡り、ベルモント・アカデミーウエスレヤン大学、シラキュース大学で8年間苦学の留学生生活を送りました。帰国後、勝海舟に師事したが、友人の薦めで三井銀行に入学し常務取締役となり、その後、三井信託銀行（株）を設立して、新分野を開拓し、その目的を社会への貢献とするなど、今日で言うフィランソロピーの基盤を作りました。

晩年は、財団法人三井報恩会の理事長となり、ハンセン病・結核・癌研究の助成など多くの社会事業・医療事業に奉仕しました。また、子どもの教育のために、はる夫人と共に私財を投じて小学校を創立しました。“何事も人々からして欲しいと望むことは人々にもその通りせよ”これは米山梅吉氏の願いでもあり、ご自身の生涯そのものでした。“他人への思いやりと助け合い”の精神を身もって行いつつ、そのことについて多くを語らない陰徳の人でした。今後日本の生きる道は平和しかない。

それをアジアに、そして世界に理解してもらうためには、一人でも多くの留学生を迎え入れ、平和を求める日本人と出会い、信頼関係を尽くすこと。

それこそが、日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業ではないかと、事業創設の背景に当時のロータリアンの思いがありました。

それから60年余りの歳月が流れましたが、民間外交として世界に平和の種子を蒔くという米山奨学事業の使命は一貫して変わっていません。

今日の世界情勢と日本の置かれている状況を考えるとき、その使命はますます重要性を増しているのではないのでしょうか。留学生への支援は、未来に向かって平和の懸け橋をかける尊い奉仕なのです。



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために



・次回のプログラム

10月29日（金）

「経済と地域社会の発展月間に因んで」12:30～

会場 ANAクラウンプラザホテル釧路+WEB

担当：国際奉仕委員会

・点 鐘 亀井会長

今週の会報担当：奈良清成会員